

大学院「新入生歓迎会」

8日(土)の夕方から、人間文化研究科の「新入生歓迎会」が行われた。この日は突風や黄砂など朝から荒れ模様の天気であった。肌寒い天気を吹き飛ばすように、生協食堂での盛況な歓迎会となった。教員も参加する「新入生歓迎会」は初めての企画であり、院生自治会の人たちが準備してきた。

大学院人間文化研究科ができて6年が経過した。昨年からは博士の学位を出すようになり、後期課程まで「完成」した。特別選抜や昼夜開講制を実施していることもあり、社会人のウェイトがかなり高い。職種や前歴、年齢構成



もじつに多様である。地域社会に開かれた研究科としての特色をもつが、院生間や教員との交流が困難なことが問題になっていた。

研究科長のときの大きな課題が「院生問題」であった。教員と院生との関係は、学部とはまた違った問題があり、対策の一つとして「目安箱」を設置して院生



の生の声を吸い上げることに努めた。昨年9月には「意見交換会」も実施したりした。こうした取り組みの過程で新入生歓迎会や教員との交流が話題となり、今回の企画となった。



歓迎会はクラッカーが鳴るなかで新入生を迎え、有賀研究科長の挨拶、乾杯へとつづいた。大半の新

入生が参加するとともに、前期課程2年や後期課程の院生も参加して交流を深めた。

私がしつこく呼びかけて、教員も10人の参加となった。2時間の会が終わって、あと片付けの早さが印象的であった。

(2006年4月10日 記)